
2024年度 事業報告書

学校法人 東洋学園

目次

1 学校法人の概要	
(1) 建学の精神	… 1
(2) 設置する学校、学部・学科	… 1
(3) 沿革	… 2
(4) 組織図	… 3
(5) 設置する学校、学部、学科の入学定員、入学者数等の状況	… 4
(6) 役員（理事・監事）、評議員	… 5
(7) 教職員数等	… 7
2 事業の概要	
・ 中期計画の実行～100周年に向けて、選ばれる大学に	… 8
・ 学部・学科の概要	… 8
・ 教育関連活動	… 10
・ 施設・設備の拡充等	… 10
・ 認証評価への対応	… 11
・ 英語教育・国際交流の充実	… 11
・ 学生支援	… 15
・ 入学試験関連	… 16
・ 卒業・終了の状況	… 16
・ 社会連携・社会貢献	… 16

2024年度 事業報告書

1. 学校法人の概要

【学校法人名】 ガッコウホウジン トウヨウガクエン
学校法人 東洋学園
(大臣認可年月日 昭和26年2月24日)

【主たる事務所】 東京都文京区本郷1丁目26番3号

(1) 建学の精神 自彊不息

本学の建学の精神として継承されてきた「自彊不息(じきょうやまず)」は、創立者・宇田尚が生涯を通して学生に伝え続けた、学びや人生の基本姿勢を表している。中国に伝わる易経の文言で、その意味は「自ら弛まず努力を続ける」ということ。大正時代、良妻賢母を良しとしていた社会通念を否定し、女性の歯科医師養成に励んだ宇田は、学生が信頼される専門家になり、自立し、自律した人間になることを求め、そのための指針として掲げたのが「自彊不息」である。時が過ぎ、社会の在り方や学校の形態は変わっても、建学の精神は不変である。「日々の努力を怠らず学びに励むことで成長し、社会を変えていく人間になってほしい」という願いを込めて、「自彊不息」を受け継いでいる。

(2) 設置する学校、学部・学科

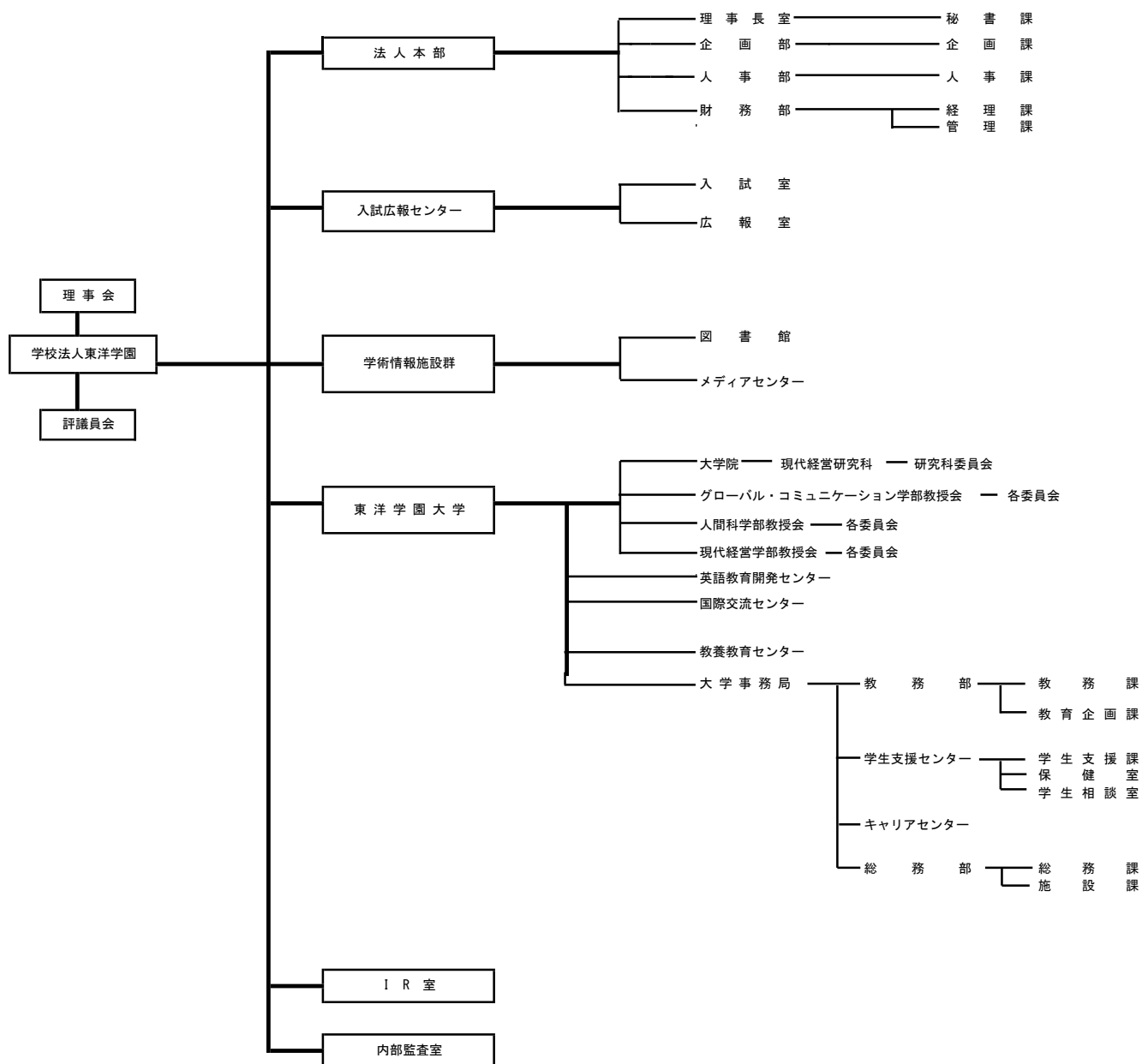
設置する学校													
フリガナ 学 校 名 (大学本部の位置)	学 部 ・ 学 科 等 名 (所 在 地)	開 設 年 度	入 学 定 員	編入学 定 員	収 容 定 員	2024年5 月1日現 在の学 生数	入 学 定 員	編入学 定 員	収 容 定 員	2025年5 月1日現 在の学 生数	備 考		
トウヨウガクエンダイガク 東洋学園大学 東京都文京区本郷一丁目26番3号	現代経営学部 (東京都文京区本郷一丁目26番3号)	年度	2024				2025						
			名	名	名	名	名	名	名	名			
	現代経営学科	H 14	245	35	990	818	245	0	985	933	2023年度入学定員変更 (215名→245名) 2025年度編入学定員変更 (35人→0人)		
	人間科学部 (東京都文京区本郷一丁目26番3号)												
	人間科学科	H 14	200	20	840	765	200	0	820	761			
	グローバル・コミュニケーション学部 (東京都文京区本郷一丁目26番3号)												
	グローバル・コミュニケーション学科	H 25	110	10	480	361	110	0	460	314			
	英語コミュニケーション学科	H 25	100	10	460	248	100	0	430	210	2023年度入学定員変更 (120名→100名) 2025年度編入学定員変更 (10人→0人)		
	東洋学園大学大学院 (東京都文京区本郷一丁目26番3号)												
	現代経営研究科 現代経営専攻	H 20	10	-	20	7	10	-	20	7			
東洋学園大学 計			665	75	2,790	2,199	665	0	2,715	2,225			

(3) 沿革

学校法人東洋学園は自彊不息(じきょうやまず)の精神を建学の理念に掲げ、女性の自立のため歯科医師を養成する東洋女子歯科医学専門学校(旧制)として1926(大正15)年に建学し、以来90余年の歴史を有します。戦禍で施設を焼失した後は東洋女子短期大学として再発足し、英語教育に力を入れてきました。1992(平成4)年から男女共学の四年制大学となり、グローバル化が進む現代にあって時代の変化に対応できる力を身につけ、世界の発展に貢献できる人材の育成を使命としています。

大正6(1917)年	9月	前身・明華女子歯科医学講習所開校(翌年、歯科医学校に改組)
大正10(1921)年	12月	専門学校令による明華女子歯科医学専門学校に改組(女子初)
大正15(1926)年	11月	東洋女子歯科医学専門学校、文部大臣指定校(女子初)として創立
昭和3(1928)年	8月	ドイツ近代復興様式の校舎・寮竣工
昭和16(1941)年	5月	全て女性による歯科医学学術大会を挙行
昭和20(1945)年	4月	第二次世界大戦の空襲により施設を焼失
昭和21(1946)年	5月	千葉県津田沼町(現習志野市)の仮校舎に移転
昭和22(1947)年	4月	第1回歯科医師国家試験、合格率全国2位の成績
	5月	学制改革により女子歯科医専の廃止決定
	9月	旧制・東洋高等学校(理科乙類＝医学部予科)開校
昭和23(1948)年	11月	本郷校舎復旧
昭和25(1950)年	3月	東洋女子歯科医専第25回生、東洋高等学校第1回生卒業(最終)
	5月	新制・東洋女子短期大学(英語科)開学、英語科教員養成を開始
昭和36(1961)年	2月	本郷旧1～3号館第1期工事竣工建築家・今井兼次による「フェニックス・モザイク」完成
昭和39(1964)年	4月	コース制を設定、LL施設本格稼働開始
昭和42(1967)年	9月	千葉県流山市に流山キャンパス開設
昭和48(1973)年	4月	学科名称を英文科に変更、専攻科を設置
昭和53(1978)年	4月	学科名称を英語英文科に変更
昭和57(1982)年	4月	流山キャンパスに英米総合研究を骨子とする欧米文化学科を開設
平成4(1992)年	4月	東洋学園大学(人文学部英米地域研究学科・英米言語学科)開学
平成7(1995)年	4月	短大専攻科、学位授与機構認定となる
平成12(2000)年	4月	大学人文学部コミュニケーション学科開設
平成14(2002)年	4月	大学人文学部人間科学科、現代経営学部現代経営学科開設
平成16(2004)年	4月	大学人文学部、既存3学科を再編し国際コミュニケーション学科開設
平成18(2006)年	3月	東洋女子短期大学第55回生卒業(最終)
平成19(2007)年	3月	本郷新1号館竣工
平成20(2008)年	4月	東洋学園大学大学院 現代経営研究科現代経営専攻開設
平成25(2013)年	4月	人文学部をグローバル・コミュニケーション学部、人間科学部に再編
平成26(2014)年	4月	就学キャンパスを学部別に再編
	4月	国際キャリアプログラム(ICP)開始
平成28(2016)年	4月	就学キャンパスを本郷に統合
	11月	創立90周年
令和4(2022)年	4月	東洋学園大学開学30周年

(4) 組織図



(5)設置する学校、学部、学科の入学定員、入学者数等の状況

学校名	学部・学科名	2025年度									平均入学定員超過率 下段：推薦入学
		入学定員	志願者数	受験者数	合格者数	入学者数 下段：推薦入学	入定充足率 下段：推薦入学	収容定員	現員	収定充足率	
東洋学園大学	現代経営学部 現代経営学科	245名	469名	444名	432名	301名	1.23	985名	933名	0.95	1.02
						232名	0.95				0.76
	人間科学部 人間科学科	200名	325名	311名	300名	206名	1.03	820名	761名	0.93	0.98
						169名	0.85				0.78
	グローバル・コミュニケーション学部 グローバル・コミュニケーション学科	110名	102名	100名	99名	73名	0.66	460名	314名	0.68	0.67
						62名	0.56				0.54
	英語コミュニケーション学科	100名	70名	70名	69名	48名	0.48	430名	210名	0.49	0.48
42名						0.42	0.38				
東洋学園大学大学院 現代経営研究科 現代経営専攻	10名	4名	3名	3名	3名	0.30	20名	7名	0.35	0.25	
					1名	0.10				0.05	
学校名	学部・学科名	2024年度									平均入学定員超過率 下段：推薦入学
		入学定員	志願者数	受験者数	合格者数	入学者数 下段：推薦入学	入定充足率 下段：推薦入学	収容定員	現員	収定充足率	
東洋学園大学	現代経営学部 現代経営学科	245名	379名	368名	347名	187名	0.76	990名	826名	0.83	0.94
						103名	0.42				0.69
	人間科学部 人間科学科	200名	281名	279名	271名	179名	0.90	840名	768名	0.91	0.97
						116名	0.58				0.75
	グローバル・コミュニケーション学部 グローバル・コミュニケーション学科	110名	108名	105名	105名	58名	0.53	480名	364名	0.76	0.76
						30名	0.27				0.60
	英語コミュニケーション学科	100名	66名	65名	64名	46名	0.46	460名	249名	0.54	0.54
34名						0.34	0.41				
東洋学園大学大学院 現代経営研究科 現代経営専攻	10名	9名	9名	6名	4名	0.40	20名	7名	0.35	0.35	
					1名	0.10				0.03	
学校名	学部・学科名	2023年度									平均入学定員超過率 下段：推薦入学
		入学定員	志願者数	受験者数	合格者数	入学者数 下段：推薦入学	入定充足率 下段：推薦入学	収容定員	現員	収定充足率	
東洋学園大学	現代経営学部 現代経営学科	245名	630名	610名	563名	251名	1.02	960名	887名	0.92	1.01
						204名	0.83				0.72
	人間科学部 人間科学科	200名	404名	396名	368名	208名	1.04	840名	812名	0.97	1.02
						183名	0.92				0.79
	グローバル・コミュニケーション学部 グローバル・コミュニケーション学科	110名	158名	156名	152名	94名	0.85	490名	425名	0.87	0.88
						88名	0.80				0.70
	英語コミュニケーション学科	100名	102名	97名	84名	44名	0.44	480名	322名	0.67	0.67
41名						0.41	0.47				
東洋学園大学大学院 現代経営研究科 現代経営専攻	10名	6名	6名	2名	1名	0.10	20名	7名	0.35	0.48	
					0名	0.00				0.00	
学校名	学部・学科名	2022年度									平均入学定員超過率 下段：推薦入学
		入学定員	志願者数	受験者数	合格者数	入学者数 下段：推薦入学	入定充足率 下段：推薦入学	収容定員	現員	収定充足率	
東洋学園大学	現代経営学部 現代経営学科	215名	674名	644名	550名	231名	1.07	930名	865名	0.93	1.02
						178名	0.83				0.67
	人間科学部 人間科学科	200名	446名	433名	390名	188名	0.94	840名	815名	0.97	1.02
						149名	0.75				0.78
	グローバル・コミュニケーション学部 グローバル・コミュニケーション学科	120名	223名	213名	205名	78名	0.65	500名	457名	0.91	0.93
						62名	0.52				0.69
	英語コミュニケーション学科	120名	178名	171名	155名	63名	0.53	500名	402名	0.80	0.83
43名						0.36	0.56				
東洋学園大学大学院 現代経営研究科 現代経営専攻	10名	2名	2名	2名	2名	0.20	20名	9名	0.45	0.55	
					0名	0.00				0.00	

※ 下段は、推薦入学(内数)。
 ※ 平均入学定員超過率は当該年度を含めた過去4年間の状況。
 ※ 人数等は、各年度5月1日現在の状況。
 ※ 小数点第3位四捨五入

(6)役員(理事・監事)、評議員

〈2024年度理事・監事〉

理事・監事の区別	職名又は担当職務	フリガナ 氏 名	常勤・非常勤の区別	選任区分等	
				号	選任区分
理 事	理事長	アイチ タロウ 愛知 太郎	常勤	2	評議員
理 事	常任理事	ツシナカ ユカ 辻中 豊	常勤	1	学 長
理 事	理 事	カワガミ ノブアキ 川上 伸昭	非常勤	2	評議員
理 事	理 事	フジマキ タケシ 藤巻 健史	非常勤	2	同 上
理 事	理 事	トダ ナホコ 戸田 直子	非常勤	2	同 上
理 事	理 事	マエタ マサフミ 前田 正史	非常勤	3	学識経験者
理 事	常任理事	クスノキ ノブアキ 楠 誠晃	常勤	3	同 上
理 事	理 事	セガワ コウヘイ 瀬川 浩平	非常勤	3	同 上
監 事	監 事	ミウラ リュウイチ 箕浦 龍一	非常勤	7	理事会選任
監 事	監 事	オオハシ ヨウスケ 大橋 洋介	非常勤	7	同 上

(2025年3月末日現在)

理事長		5-2	理事の互選
(定数) (現員) (任期)		6-1-1	学長 (定数1名)
理 事 8名 8名 4年	選任条項	6-1-2	評議員(評議員会選任) (定数4名)
(1号除く)		6-1-3	学識経験者(理事会選任) (定数3名)
監 事 2名 2名 4年		7	監事(理事長選任) (定数2名)

〈2024年度評議員〉

フリガナ 氏 名	選任区分等		備考
	号	選任区分	
ツシナカ ユタカ 辻中 豊	1	学 長	兼理事
アイチ タロウ 愛知 太郎	2	法人職員	兼理事長
タカオ タカユキ 高尾 享幸	2	同 上	
アベ ハジメ 阿部 一	2	同 上	
ウダ タカオ 宇田 隆生	2	同 上	
トダ ナオコ 戸田 直子	3	同窓生	兼理事
トヅカ ヒサコ 富塚 比咲子	3	同 上	
ウチダ ミヨ 打田 美代子	3	同 上	
タナベ エイチ 田邊 栄一	4	学識経験者	
カワカミ ノブアキ 川上 伸昭	4	同 上	兼理事
アセガミ ヒデト 畔上 秀人	4	同 上	
ヤシオ ケイコ 八塩 圭子	4	同 上	
クスナキ ノブアキ 楠 誠晃	4	同 上	兼理事
フジマキ タケシ 藤巻 健史	4	同 上	兼理事
ヨシタケ ヒロミチ 吉武 博通	4	同 上	
セガワ コウヘイ 瀬川 浩平	4	同 上	兼理事
タカシマ ハツヒサ 高島 肇久	4	同 上	

(2025年3月末日現在)

評議員	(定数)(現員)(任期) 17名 17名 4年 (1号除く)	選任条項	21-1-1 学長(定数1名) 21-1-2 法人職員(理事会選任)(定数4名) 21-1-3 同窓生(理事会選任)(定数3名) 21-1-4 学識経験者(評議員会選任)(定数9名)
-----	--------------------------------------	------	--

(7) 教職員数等

[教育職員]

	2024年5月1日現在						2025年5月1日現在					
	東洋学園大学						東洋学園大学					
	学 長 辻 中 豊						学 長 辻 中 豊					
	学長・副学長	グローバル・コミュニケーション学部	人間科学部	現代経営学部	その他	大学合計	学長・副学長	グローバル・コミュニケーション学部	人間科学部	現代経営学部	その他	大学合計
学 長	1名					1名	1名					1名
副 学 長	1名					1名	1名					1名
教 授		13名	12名	9名		34名		14名	14名	9名		37名
准 教 授		6名	4名	8名		18名		6名	4名	6名		16名
専任講師		6名	3名	5名	1名	15名		4名	3名	6名		13名
助教		1名	1名	0名		2名		1名	1名	0名		2名
専任合計	2名	26名	20名	22名	1名	71名	2名	25名	22名	21名	0名	70名
兼任講師	0名	33名	43名	45名	0名	121名	0名	29名	42名	54名		125名

[事務職員、嘱託職員、現業・技術職員]

	2024年 5月1日現在	2025年 5月1日現在
事務職員・嘱託職員	78名	76名
技術職員・現業職員	0名	0名
合 計	78名	76名

2. 事業の概要

【中期計画の実行～100周年に向けて、選ばれる大学に】

第1期中期計画（2020-2024年度）は、以下の7つのマスタープランを軸に、大学の持続的な発展を目指して取り組んできた。最終年度には、63項目の実行計画を策定し、推進した。

1. 教育理念の明確化
2. 切れ目のない教育支援
3. 充実の学生生活支援
4. グローバル化と地域連携の推進
5. キャリアサポート・就職支援体制の強化
6. 財政基盤の安定とガバナンスの強化
7. 退学防止への取組

次年度からは、社会的な責任を果たしつつ、建学の精神「自彊不息」に基づいた3つの教育理念及び5つの視点を基軸に、第2期中期計画（2025-2029年度）を策定し、大学運営に注力していく。

【学部・学科の概要】

〈グローバル・コミュニケーション学部〉

グローバル・コミュニケーション学科（入学定員110名 3年次編入学定員10名）

グローバルな現代世界の諸課題について幅広く学び、その解決の助けとなるような考えやアイデアを発信できるようになることを目標としている。日本を含むアジアの文化・社会についても学ぶことで、グローバル世界の課題に向き合い、その解決につながるような新しい価値を生み出すことのできる人材を育成することを目指し、2年次ゼミである複数の「専門基礎演習」を履修する中で専門分野の視野を広げ、3・4年次に開設されるゼミ（専門応用演習・卒業研究演習）を中心とした各科目修得へとつなげるよう運営した。

英語コミュニケーション学科（入学定員100名 3年次編入学定員10名）

グローバル世界の第一共通語としての英語について文化・社会的な面から学ぶとともに、仕事で英語を使いこなせるようになることを目的としている。英語圏の文化について幅広く学びつつ、効果的な学習法を通じて実践的な英語力を身につけることで、グローバルビジネスの世界で活躍できる人材や、英語教員・日本語教員としてのキャリアを築くことのできる人材を育成することを目指し、「英語コミュニケーション」「英語圏社会」「英語圏文学・文化」「英語学」「英語・日本語教育」という5つのフィールドを中心とした多彩な専門科目を揃えて運営した。また、教職課程が配置され

ており、履修により、中学校教諭一種免許状（英語）、高等学校教諭一種免許状（英語）を取得できる。

〈人間科学部〉

人間科学科（入学定員200名 3年次編入学定員20名）

「心」「身体」「社会」についての科学である「人間科学」を多角的かつ総合的に学び、「人を支える人」として社会に貢献できる人材を育てることを目標としている。幅広い教養と実践的な英語運用能力を活かして、「心」「身体」「社会」についての多角的・総合的な知識をもとに、グローバル社会の多様な人々を支援できる能力を身につけている学生を育成するために以下の3コース体制で運営した。

- ・心理・カウンセリングコース
- ・スポーツ健康コース
- ・人間社会コース

〈現代経営学部〉

現代経営学科（入学定員245名 3年次編入学定員35名）

ビジネスコミュニケーションに必要な語学力と教養に加え、経営学・経済学・マーケティングの理論及び応用を学ぶことにより、課題発見力・行動力・他の人々と協働する力を修得させ、社会の持続的発展に貢献する人材を輩出することを目的としている。以下の3領域6コース体制で運営した。

（経営学領域）

- ・ビジネスリーダーコース
- ・ベンチャー・事業承継コース

（経済学領域）

- ・会計・ファイナンスコース
- ・政策・エコノミクスコース

（マーケティング領域）

- ・メディア・マーケティングコース
- ・消費者心理・サービスマーケティングコース

〈大学院現代経営研究科〉

現代経営専攻（修士課程 入学定員10名）

既設の現代経営学部現代経営学科を基礎として、学部段階における教養教育とこれに裏打ちされた専門的素養を基礎として、経営学分野を中心とした専門性の一層の向上を図ることにより、社会の多様な要請に応えることのできる幅広く深い学識と研究

能力に加えて、高度の専門的な職業等を担うために必要な卓越した能力を備えた人材を育成することを目的としている。

【教育関連活動】

○PBL 教育体制の構築

「TOGAKU IMPACT 2030」で示された教育方針に基づき、本学における PBL 教育を推進する為に、委員会を組織し、教員に学内アンケートを実施し、実態調査を行った。また、全学研究会を開催し、本学における先行事例の発表を行ったり、教養基礎演習において、職員が授業に参加するパイロットクラスを設置して、教職協働のトライアルを実践した。

○初年次教育・基盤教育の見直し

英語教育開発センターと教養教育センターを組織統合し、新組織「教養デザイン学際カレッジ」の設置する為、各業務の洗い出しを行い、廃止するもの、継続するもの、改善するものなどの区分けを行った。各センターの実績を活かしつつ、学部の特長教育につなげる初年次教育、基盤教育の充実をはかる。

○情報処理教育の充実

文部科学省が進める数理・データサイエンス・AI 教育プログラムの認定を受けるべく、授業アンケート、外部評価などの自己点検評価を行い、HP に情報公開するとともに、申請書類の作成準備を行った。また、今後、認定された後、所定の履修を行った学生に対し、オープンバッジを発行する準備を進めている。

【施設・設備の拡充等】

○1 号館

- ・屋上を全面改修した。
- ・体育館ステージの吊り物操作盤の更新を行った。

○1, 4 号館

- ・非常放送設備を更新した。

○4 号館

- ・地下ハロン消火設備の更新を行った。
- ・地下トレーニングルーム内天井のアスベスト除去を行った。
- ・2 階事務室内天井に空調効果を高めるサーキュレーターを設置した。

○1, 4, 5 号館

- ・居室内に空調効果を高めるポータブルサーキュレーターを設置した。

○東洋学園大学グラウンド

- ・男女トイレの便器数を増設した。

○安藤坂ドミトリー

- ・全居室内に Wifi 設備を設置した。

【認証評価への対応】

2024年度に公益財団法人大学基準協会で第3期認証評価を受審した。2023年度に作成した「点検・評価報告書」「大学基礎データ」を基に2024年9月16日から9月17日の2日間で実地検査が行われ、2025年3月に「適合」の認定を受けた。認定期間は2025年4月1日から2032年3月31日までとなる。今回指摘を受けた「是正勧告」及び「改善課題」については、2028年の7月末までに改善状況を改善報告書として取りまとめて報告することとなる。

【英語教育の充実と継承・国際交流の充実】

○長期留学制度

留学形態	申請条件	奨学金
国際交流センター特別留学	GPA3.3～、TOEIC500～	50万円/年
本学/JSAF 協定校留学	GPA3.0～、TOEIC450～	奨学金 30万円/年
認定留学	GPA2.5～、TOEIC350～	なし

本制度では、①授業料減免、②単位認定があり、③在籍期間とすることによって4年間の卒業が可能となる。2024年度の制度利用者は1年間2名（アイルランド、カナダ）だった。その他に、休学して海外での経験を積みたい学生に奨励金20万円/年を支給する「海外経験休学サポート制度」の実施を開始した。2024年度利用者は1名だった。

○短期留学

2024年度に実施したプログラムは以下の通り。

夏季：IEC 主催プログラム（韓国、カンボジア）、ISA（イギリス、オーストラリア、韓国）

春季：IEC 主催プログラム（オーストラリア、中国）、ISA（イギリス、オーストラリア）

参加者は夏季10名、春季13名、語学力のレベルアップや国際体験の育成に寄与した。

ISA（Independent Study Abroad / 海外自主留学）は当該年度より運用が開始され、夏季・春季ともに各3名の参加があった。最少催行人数の制限なく、1名からでも留学が可能となった点は大きな進展である。また、所定の条件を満たせば「海外文化演習」や「国際体験演習」という卒業要件科目の1つとして単位が認定されるため、留学先やプログラムの期間・内容の選択肢が拡大し、学生一人ひとりの多様なニーズに沿った形で学びながら卒業要件を満たすことが可能となった。これにより、留学という目標をより具体化する機会を提供できるようになった。

○COIL(Collaborative Online International Learning / 国際連携学習)

アメリカの協定校サム・ヒューストン州立大学 (SHSU) の学生とオンラインで、「なぜ結婚するのか？」をテーマとした共同プロジェクト (第 2 回) を実施し、社会的・経済的・心理学的観点から議論を深めた。本学からは 11 名の学生が参加し、事前研修を経て、合同講義でのアイスブレイクや Zoom セッションを通じて、活発な交流を行った。

○国際交流イベントと国際キャリア開発プロジェクト

留学先各国について理解を深めることを目的に、様々なイベントやプログラムを実施した。その一環として、留学経験を就職活動や将来のキャリア構築にどのように活かすかを考えるイベント「Future Me」を開催した。また Social Media Intern 制度を通じて、学生が SNS への投稿やイベント情報の発信を行い、広報活動に主体的に関わった。こうした協働を通じて、学生間のコミュニティ意識も醸成された。

グローバル・ラウンジでは、台湾、ベトナム、ニュージーランドなどをテーマに、それぞれの国の文化を紹介するイベントを実施した。特に台湾に関しては、台湾義守大学の学生によるプレゼンテーションや、本学学生との交流会が行われ、国際的な相互理解が深まった。

「Future Me」イベントでは、「アメリカ留学体験談」として卒業生によるビデオメッセージを上映した。メッセージでは、本学卒業後にアメリカの大学院に進学し、経営学修士 (MBA) を取得、現地での就職を経て通算 5 年間に及ぶアメリカでの生活を送った経験をもとに、留学を通じた学びやキャリア形成、アメリカでの暮らしについて具体的に語られた。

○SHSU in Togaku

アメリカの協定校であるサム・ヒューストン州立大学 (SHSU) のサマースクールが 10 周年を迎え、教員 1 名と学生 13 名が来日し、本学で 3 週間のプログラムを実施した。日本文化紹介イベントや郊外学習、歓送迎会などを通じて本学学生 (延べ参加者 200 名以上) と親交を深めた。

○浙江旅游職業学院 in Togaku

中国の協定校である浙江旅游職業学院とのインバウンドプログラムを本学にて計画・実施し、教員 1 名と学生 8 名が 7 日間にわたり参加した。学園祭の体験をはじめ、茶道・華道などの日本文化体験、郊外学習、特別授業を通じて、30 名以上の本学学生と交流を深めた。

○「鑑真杯」中国語スピーチコンテスト

中国語の運用能力を高めるとともに、日中両国の相互理解と友好の促進を目的として、

学内で実施する「鑑真杯中国語スピーチコンテスト」第12回を開催した。「暗唱・朗読部門」には9名、「スピーチ部門」には4名が出場したほか、「特別スピーチ部門」では、中国にルーツを持つ学生1名およびインターン生1名が発表を行い、日頃の中国語学習の成果を披露した。

○国際キャリアプログラム (International Career Program)

1年間の留学を必須とする本プログラムにおいて、秋学期には2年次学生3名が、留学先であるアメリカ・テネシー工科大学へ出発した。

なお、本プログラムは2024年度入学生を最後に、終了することが決定している。

○インターン

2024年9月より、2名のインターンを新規に採用した。インターンは授業補助やラウンジ・タイムの運営、イベント開催などに積極的に関わり、本学学生の英語教育の充実に加え、国際交流および異文化理解の促進にも寄与した。

○VEL (Virtual English Lounge)

COVID-19以降、授業期間中の平日昼休み(12:15~12:50)にZoom上でVELを開催してきた。一方で、Global Loungeにてリアルラウンジ・タイムも実施している。春学期のVEL利用者がほぼ0名であったことから、秋学期より中止することを決定した。オンライン授業の減少に伴い、学生の関心が対面形式の活動へとシフトしていることが確認された。

○ALPS (Academic Learning & Professional Skills / 英語特別選抜クラス)

ALPSクラスは、全学部の2~4年生を対象とした英語の特別選抜クラスである。履修が認められた学生は、ビジネスや学術的な目的(論文執筆、留学、大学院進学など)に必要な英語スキルを磨く。授業は週2回、ネイティブスピーカーによって実施され、毎回の課題も多いが、意欲的な学生は高い英語力とソフトスキルを身につけることができる。

学年末には発表会を開催し、人物・学業ともに優秀で他の学生の模範となる学生1名にセンター長賞を授与した。また、プログラムを完了した4年生にはALPS修了証が授与された。4年次になると、就職活動や卒業に向けた学業を優先する学生がALPSの継続を辞退することもあり、2024年度4年次生においては、2年次に18名でスタートしたクラスが、修了証授与の時点では9名と半減した。

当該クラスはこれまでEEDCにより運用されてきたが、同組織の解消に伴い、2025年度より新たな組織が引き継ぐこととなった。制度の対象学部については、2023年度入学生からはGC学部およびHS学部の2学部に限定された。この2023年度入学生の運営はEEDCが担ってきたが、EEDCの解消によりその運営を新組織へ引き継いだ。さらに、2024年度以降

の入学生についても対象学部は同様の2学部であるが、運営は各学部が担当することとなり、学部に引継ぎを行った。

○TOEIC IP Test

TOEIC IP Test の導入により、公開テストよりも安価に受験できることから、英語力の測定や留学・就職活動への活用を目的として、本学では学生に TOEIC テストの受験を促進してきた。2024 年度の受験者は 58 名となり、ここ数年続いていた減少傾向がさらに進み、2023 年度の 104 名から大きく減少した。これは、2023 年度より GC 学部において1・2 年次を対象に TOEIC IP 無料受験を必須とする制度を独自に導入したことが大きな要因と考えられる。なお、TOEIC IP Test で 500 点以上を取得した学生を対象とした受験料免除の特典制度も継続しており、同テストの継続的な受験を支援している。

○高大連携

高大連携高校に関して、対面によるイングリッシュ・ラウンジタイムを実施した。春学期に高校に訪問する形で2回、秋学期には本学の Global Lounge に高校生を迎える形で1回行った。EEDC の年度末での組織解消を見据え、実施に関する教員の手配や経費等の手続きは入試室へ委譲し、EEDC/IEC ではインターンの手配を担当した。当日は、高校生がネイティブスピーカーとの自由な会話やクイズなどを通じて、英語の楽しさを体感できるよう工夫した。

○外国人留学生

2 年目を迎えた当該業務では、外国人留学生の管理業務（毎週の在籍確認、各種奨学金の紹介、手続き等）を継続して行っている。また、留学生同士の交流にとどまらず、日本人学生との相互交流を促進するため、「鑑真杯」や「浙江旅游職業学院 in TOGAKU」への学生参加を積極的に促した。

○海外からの大学訪問

台湾の ISU 大学、カナダのカルガリー大学、ベトナムのダナンにある FPT 大学など。これらの訪問者とは今後の留学生派遣、受入と将来の協力体制の構築について検討した。

【学生生活支援全般】

学生支援センターは2019年度より、学生支援課、保健室、学生相談室で構成される新たな学生支援部門として発足し2024年度で6年目となった。この3部署は様々な場面において連携、協働しながら、学生支援においては、その業務全般を学生支援センターが担っており、3部署の役割や障がいのある学生に関する修学支援については「学生支援センター利用ガイド」を配付するなどし、本センターの利用促進を図っている。

学生支援課は、学生生活の総合支援窓口として、日々の学生生活の支援を行っている。今年度は、各学年の春学期、秋学期オリエンテーション等の学内行事、学生総会、体育祭（春学期・秋学期）といった学生行事についても、滞りなく実施。クラブ会員勧誘については、通常の勧誘のほか、学内に各学生団体のPRポスターをパネル展示するなどして、各学生団体が新入生獲得を目指した。また学生会の中心的役割を担う学生会運営部の学生とともに、新規のイベントを企画・立案・実行するなどし、新入生の学生団体加入促進を図った結果、加入率は昨年度を上回った。フェニックス祭（学園祭）については、2日間開催し、大きなトラブルもなく無事に終了した。各クラブの日々の活動については、学生の自覚ある活動を促すとともに、適宜、施設使用や怪我予防に関する注意喚起を行った。

奨学金関連では日本学生支援機構奨学金、国が所管する高等教育の修学支援新制度のほか、本学独自の奨学金である東洋学園奨学金の採用枠を拡大する形で経済的支援を実施した。また、2022年度に本学同窓会独自の在学生向け給付型奨学金制度「東洋学園大学同窓会奨学金」が新設され、2024年度も実施した。その募集、手続きは学生支援課が担い、選考は学生支援委員会で行った。

修学支援に関しては、本学の修学支援制度に基づき、支援対象者は申請者だけでなく支援が必要と思われる学生についても対象とし、学生相談室、保健室から修学支援制度を説明し申請を促し学生支援課へつなぐなど、各部署担当職員が綿密に連携し速やかに支援を行った。

障がい学生支援に関しては、支援体制の整備を行うにあたり、新たに修学支援コーディネーターを採用、また2023年度から運用された障がい学生支援に関する諸規程を見直し改訂した。改訂にあたっては、障がい学生支援は全学的な取り組みであることを明確にすることを目的とし、2025年度はその規程に基づき支援を行うこととしている。

保健室においては、学生の日々の健康維持・増進に関わる保健指導や健康相談、定期健康診断の実施、健康診断証明書の発行、体調不良や病気・ケガ等の応急処置等を行い、学生の健康や安全への配慮に努めた。

健康診断は、計画通り4月初めのオリエンテーション期間に実施し、約87%の受診率を確保できた。保健指導・健康相談では新たに健康フェアを開催。9月のオリエンテーション期間に筋力測定会を実施し、その結果からの健康アドバイスを行った。

学生相談室では、日々2名の体制で相談を受け付け、漏れなく対応できるよう努めている。

る。主要な業務として、学生・保護者のカウンセリング、教職員のコンサルテーションが挙げられる。これ以外に、新入生健康調査とその調査結果におけるハイリスク者の呼出面接、学生が安心して交流できるグループ活動や心身の健康増進を目的とした講座の実施、心理教育的な内容を含む「学生相談室だより」や「学生相談室 NEWS（教職員向け）」の発行を行い、学生並びに教職員への学生相談室利用を促した。

また、2022 年度から開始した「こころの健康相談（精神科相談）」を 2024 年度も実施。学生が学内で精神科医に相談できることにより、精神医学的な立場からの助言を受けられる。また教職員に対して、精神障害や発達障害のある学生対応に関してコンサルテーションを行った。

2024 年 12 月には外部講師による部署内研修会を開催し、学生相談室・保健室・学生支援課のスタッフが参加。その後の学生支援対応および連携体制等に活かしている。

【入学試験関連】

各学部で異なった選考を行っていた「総合型選抜小論文方式」を全学部において事前提出に統一した。小論文方式での受験者数は前年度比 172. 2%（119 名⇒205 名）と増加した。また現代経営学部で導入したプレゼンテーション方式の課題免除（オープンキャンパス内で行われる PBL プログラム修了で課題免除となる）では受験者数 107 名と多くの受験生を獲得した。これらによって総合型選抜全体では前年度比 204. 4%（159 名⇒325 名）と大幅に増加した。

学校推薦型ではスポーツ推薦（人間科学部）の増加はあったが総じてこの入試区分では受験者は減少した（前年度比 82. 5%）。

一般選抜では、受験者数は前年度比 103. 6%の小幅な増加であったが、昨年度改善した合格者の入学手続率が今年度更に 35. 1%と向上した。これは全体的な入試の早期化、他大学の合否状況など外的要因が影響したものと考えられるが、特待生の入学手続率も前年度から伸びた（18. 1%⇒37. 7%）ことから、受験生の経済的な援助の需要の高まりもあると考えられる。

【卒業・終了の状況】

グローバル・コミュニケーション学部 223 名、人間科学部 199 名、現代経営学部 214 名 現代経営研究科 3 名卒業生を輩出した。

【社会連携・社会貢献】

1、文京区との連携

○文の京ロード・サポート「東洋学園大学クリーンキャンペーンチーム」

本郷一丁目 26 番～本郷二丁目 28 番における、道路の美化清掃を週 2 日継続して行った。

2、地域貢献

○文京区本郷台中学校職場体験

9 月に 3 日間文京区本郷台中学校 4 名の生徒を職場体験として受け入れた。

○公開講座（リベラルアーツ）

5 月～8 月に計 6 回にわたる公開講座（リベラルアーツ）を講座料無料で対面およびオンラインで実施した。

○現代経営研究会

10 月～12 月に計 5 回にわたる業界・企業の経営者を招いての講座を講座料無料で対面およびオンラインにて一般公開した。2024 年度テーマ：「結ぶチカラ」

○生涯学習講座

本郷キャンパスにて夏季講座（8 月）に 12 講座、2.3 月に春季講座 10 講座実施した。

○本郷百貨店

10/20(日)地域連携の一環で、ワーク・スタディ・スタッフ（以下ワースタ）13 名が本郷百貨店実行委員会主催の「第 7 回本郷百貨店祭り」に出展参加。

以上